

2009年2月9日

各位

熊本県熊本市南熊本三丁目14番3号
株式会社トランスジェニック
代表取締役社長 佐藤道太
(コード番号 2342 東証マザーズ)
問合せ先 IR・広報担当 森田貴子
電話番号 078-306-0590

新規胆管がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許出願について

株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：佐藤道太、熊本県熊本市）と国立大学法人熊本大学（以下 熊本大学、学長：崎元達郎、熊本県熊本市）は、新規胆管がんマーカーに対する抗体ならびにその診断応用に関する特許を共同出願しましたので、お知らせいたします。

当社は、がんをはじめとする様々な疾病を対象として、抗体を用いた新たな診断方法の研究開発を進めています。こうした取り組みの一環として、2006年9月に独立行政法人 科学技術振興機構が行う「産学共同シーズイノベーション化事業 顕在化ステージ」の採択を受け、胆道系がん（胆嚢がんおよび胆管がん）の早期診断の実用化を目的として熊本大学と共同研究を行ってまいりました。

当社と熊本大学大学院 医学薬学研究部 阪口薫雄教授らの研究グループは、GANP®マウス技術を用いて胆道系がん組織に存在するマーカー候補物質に対する抗体を網羅的に作製し、胆管がんの早期診断および治療に有望な腫瘍マーカー（以下 本マーカー）の開発に成功しました。

本マーカーは、胆管がん患者の血漿および血清中に存在する糖タンパク質であり、得られた抗体はこの糖タンパク質の糖鎖エピトープを認識する特異性と親和性を併せ持つ抗体です。

このたび、今後の開発・実用化に向けて、知的財産の確保を図るべきであると判断し、熊本大学と共同で特許出願することにしました。

引き続き、当社と熊本大学は、実用化に向けた取り組みを進めてまいります。

なお、本件が当期（平成21年3月期）の業績に及ぼす影響はございません。

ご参考：

胆管がん

胆管がんは、一般的に増殖速度が速く、膵臓などの近接臓器に浸潤したり、リンパ節や肝臓に転移しやすい、悪性度の高いがんです。このため、黄疸などの自覚症状が顕れた時点ではすでに手遅れの進行がんである場合が多く、胆管がんを克服するためには治療ができる早期の段階での発見が重要であるとされています。

近年、胆管がんの診断には、超音波検査やCTやMRI検査など画像検査が用いられています。また、より簡便な診断方法として、血液中の腫瘍マーカー（CA19-9, CEA, CA50など）の測定が用いられていますが、これらのマーカーは胆管がんのみならず他の臓器のがんの指標でもあるため、胆管がん特異的な腫瘍マーカーを用いた診断検査法の確立が待ち望まれています。

2006年10月2日発表 本研究に関するプレスリリース

<http://www.transgenic.co.jp/jp/pressrelease/pressrelease-061002.html>

以上